

## 羽島市「専門家や関係機関等と連携した取組」の紹介

### 【研究の要約】

不登校やいじめ等の問題を抱える児童生徒の支援について、ケース検討会を積極的に行い、専門家（弁護士、精神科医、臨床心理士等）、教育委員会、関係機関、学校、地域関係者等が効果的な連携を図ることにより、多くの目で見守り、多くの手で支援することができるようにする。

## 1 研究の構想

### (1) 研究テーマとテーマを設定した背景

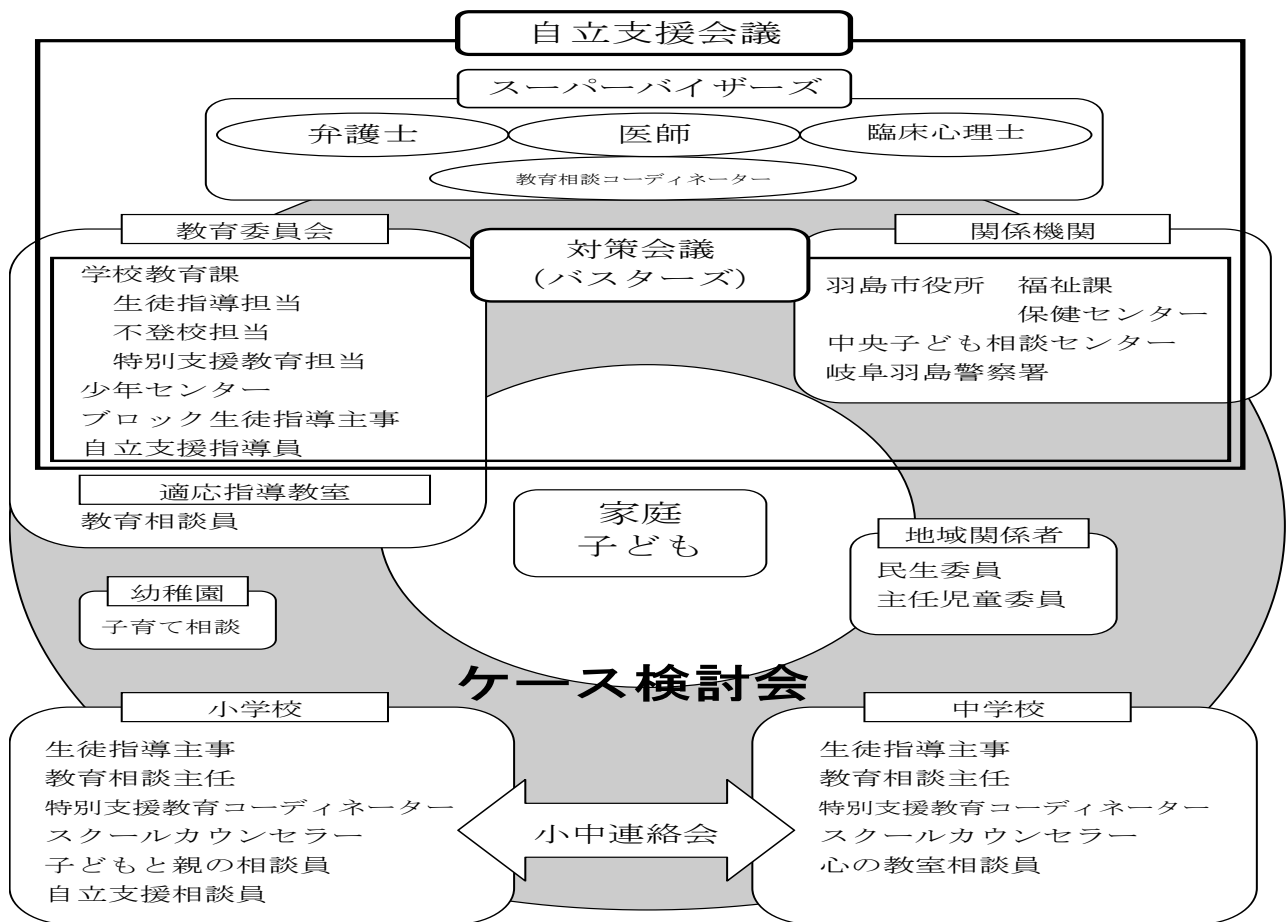
#### ＜研究テーマ＞

「専門家（弁護士、精神科医、臨床心理士等）、教育委員会、関係機関、学校、地域関係者等が問題を抱える子ども等を支援するための効果的な連携の在り方」

～自立支援のためのリーフレット、ケース検討会を通して、連携の強化を図る～

問題行動、不登校などの学校の抱える問題は多様で、複雑化・深刻化しており、学校だけでは有効な解決策を見いだすに至らないケースも少なくない。このような場合、問題を抱える児童生徒の支援方法についてケース検討会を積極的に行い、専門家（弁護士、精神科医、臨床心理士等）、教育委員会、関係機関、学校、地域関係者等、多くの目で見守り、多くの手で支援していくことができるよう、効果的な連携を図っていかうと考えた。

### (2) 調査研究の推進組織体制



### (3) 研究内容

- ① 各学校でのケース検討会の在り方
  - ・各学校で開かれるケース検討会に教育委員会が積極的に参加し、専門家、関係機関、地域関係者等との連携をコーディネートし、多様な支援の方途を調査研究する。
- ② 相談できる専門家の人材バンクの充実
  - ・学校で起きる問題は多種多様となっている。現在のバスターズ（専門家チーム）だけではなく、それぞれのケースに合わせて相談できる専門家の人材を幅広く確保し、ケース内容に合わせた適切な人材の選定の観点を究明する。
- ③ 自立支援のためのリーフレット、資料作成
  - ・いじめ、不登校、問題行動、児童虐待、発達障害等の様々な問題に対して、未然防止、早期発見、対応方法、連携が可能となる関係機関等、相談できる専門家等を含めた、児童生徒の自立支援のためのリーフレットを作成し、教員の日頃の指導に役立てる。
  - ・様々な問題における、専門的なアドバイス、専門家派遣の要項、申請様式等をまとめた資料を作成し、教員の日頃の指導の参考とする。

### (4) 検証の視点、方法

- ① 取り組んだケースについて、効果的な方策を累積して検証する。
- ② 自立を支援した児童生徒の事例から検証する。
- ③ 教員の学校評価の中で、生徒指導、教育相談に関する項目の評価から検証する。

## 2 研究の取組事例

### (1) 事例1: ケース検討会を開き、効果的な連携を図った事例

- ・学校への登校について両親の関心が薄く、不登校になっていた小学1年生の児童（姉は、中学校の相談室登校）について、ケース検討会を開いた。メンバーは、小学校（校長、教頭、生徒指導主事、学年主任、担任、相談員）、中学校（生徒指導主事、相談員）、教育委員会（生徒指導担当、不登校担当、少年センター）、関係機関（市役所福祉課、子ども相談センター）、地域関係者（民生委員、主任児童委員）とした。市役所福祉課が母親へ助言すること、学校は父親に働きかけることを継続的に行うこと、地域で見守っていくことにより当該児童の不登校状況が改善された。

### (2) 事例2: 小中連絡会を開き、効果的な連携を図った事例

- ・小学5年生から不登校となり、適応指導教室に通室していた児童について、中学校に進学するに当たり小中連絡会にて、指導方針を検討した。メンバーは、小学校（生徒指導主事、担任）、中学校（校長、生徒指導主事、相談員）、教育委員会（生徒指導担当、不登校担当、少年センター）、関係機関（市役所福祉課）、地域関係者（民生委員、主任児童委員）とした。学校では相談室にて指導し、学級への復帰を目指すこととした。相談室の指導に当たる中学校の相談員が、6年生の時から適応指導教室にて関係づくりを行うことにより、当該児童は安心して中学校に入学し相談室へ登校できた。

## 3 研究の成果

- ・児童生徒の様々な問題に対して、弁護士、精神科医、臨床心理士と教育相談コーディネーターの専門家チームによる助言を受ける仕組みを作り、専門家、教育委員会、関係機関、学校、地域関係者等が集まり、ケース検討会を開くことによって、問題を抱える子ども等を支援するための方針、方策を共通理解でき、多くの人々が継続的に支援していく連携ができるようになった。
- ・ケース検討会に講師として依頼した専門家を人材バンクに登録し、それぞれのケースに合わせた専門家を派遣したり、チームを編成したりすることにより、効果的な解決策を見い出すことができた。
- ・専門家への相談方法や不登校家庭の傾向、虐待の早期発見・早期対応のため連携できる関係機関一覧、相談機関一覧、相談できる専門家一覧等、問題を抱える子ども等への支援方法についてデータベースに登録した。市内全小・中学校が閲覧できるようにすることで、一人一人の教員が日ごろの指導に役立てられる有益な情報が、いつでもだれでも容易に得られるようになった。

（平成21年度岐阜県指定委託事業「小中連携による教育相談力強化事業」における調査研究）